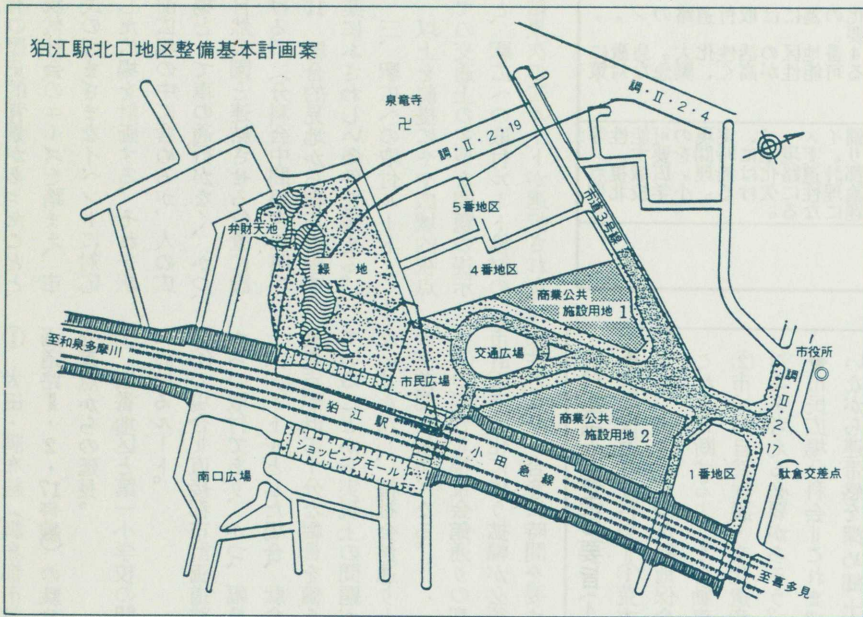




駅に降り立つと左側に、自然のままの林と史跡弁財天池に続く約五千五百平方メートルの緑がやさしく目に映り、たくさんの市民が憩う「市民広場」を真中に右側に「交通広場」、そして、商業・公共施設が取り付け道路の両側に並ぶ……「狛江駅北口整備基本計画案」がまとまりました。

昨年十一月から「市民の会」の皆さんが延べ六十七回、たびたび深夜に及ぶ熱心な討議をくり返し第一次報告書をまとめました。報告書では、時間的な制約から二案の並列となつていますが、市では、左図の計画案を採用することになりました。今後はさらに具体的な検討を行い、法に基づく都市計画変更の手続きをとって事業化を進めていく予定です。

狛江駅北口整備

基本計画案まとまる

駅前五千五百平方メートルの緑地
交通広場から真つすぐ都道狛江通りへ

昭和61年5月26日

狛江市長 石井三雄 殿

狛江駅北口問題を考える市民の会

第一次報告書 (狛江駅北口整備計画図面の提出について)

「市民の会」は、昨年11月9日発足以来、「水と緑の狛江市」にふさわしく、子孫に誇りをもって残せ、防災の観点を重視した北口(会則第3条「理念」・注3月15日号参照)を実現すべく検討を重ねてきました。7つの分科会、および全体会は61回開催され、延1,000名を超える市民が参加し、夜遅くまで熱心な検討が行われています。

本年3月にいたり、市長より小田急線高架、複々線化事業認可との関係で、5月末までに駅前広場、とりつけ道路の位置および規模について結論を出すようにと、強い要請がありました。これは、それまでの「市民の会」での検討経過を無視したもので、その後の「市民の会」の運営に支障をきたしました。

「市民の会」としましては、あまりにも時間がなさざることを指摘しつつも、関係分科会、全体会での検討をできるかぎり急ぎました。

道路交通分科会は、きつい日程の中での真剣な論議の結果、4月19日の第4回全体会に「ケースA」の図面を、そして5月6日の世話会に「ケースB」の図面を提起し、各分科会、全体会での検討が進められてきました。

特に「ケースB」は、市道75号線(福祉会館通り)の拡幅を必要とする為、主に4番、5番地区のまちづくりを検討して

きた地区計画分科会として、同地区の将来像を判断しなければならない事態となりました。分科会、そして同地区の住民集会在連日のように開かれ、市当局からの説明も受け、深夜にもおよび検討を重ねられました。

しかし、あまりにも検討期間が短いこと、判断材料が乏しいこと、満足のいく市当局の協力が得られなかったことにより、5月22日の地区計画分科会にいたっても結論を出すことはできませんでした。いさし時間があれば、なんとか前進した内容が得られたものと悔やまれます。

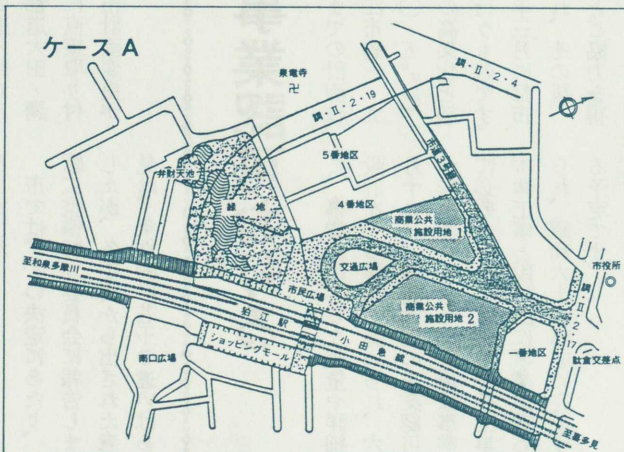
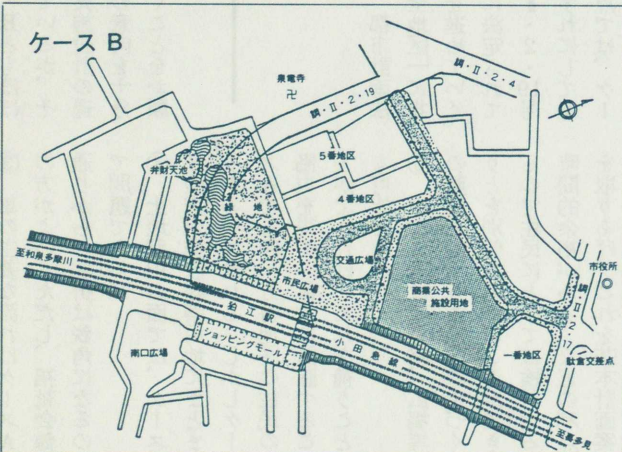
諸会合の流れとしては、事業化の容易さからみると「ケースA」、これからの狛江市にふさわしい表玄関を考えれば「ケースB」との傾向でした。これらの経過をうけ、5月24日の第6回全体会において「ケースA」、「ケースB」両論を併列して結論とすることを確認しましたので、下記のとおり報告します。

今後「市民の会」としましては、市の整備計画骨子の決定を受け、検討を継続してゆくわけですが、「市民と市が一緒になって狛江市にふさわしい狛江駅北口地区の整備計画案を作り、その実現をはかる」(会則)という「市民の会」の目的実現に向け、一層の協力を要請します。

なお、市長は5月24日の全体会の席上、具体的な検討にあたっては従来通り「市民の会」と一緒になって話し合うことを確認されていますことを付言します。

記

1. 狛江北口整備計画案概要
別紙1
2. 整備計画図面
(1) 「ケースA」 別紙2
(2) 「ケースB」 別紙3
3. 附属資料
(1) 検討案比較1 別紙4
(2) 検討案比較2 別紙5



「市民の会」の活動に感謝して

市長 石井三雄

狛江市にとって長年の課題であり、私が市長に就任してから最も重要課題として取り組んでまいりました「狛江駅北口地区整備基本計画案」がまとまりましたので発表いたします。

この案は、市民、特に「狛江駅北口問題を考える市民の会」の皆さまが、昨年十一月九日に発足以来現在まで延べ六十七回にも及ぶ全体会や分科会を重ね、中でも四月から五月にかけては



石井市長に報告書を渡す
井上俊雄世話人代表

連日にわたり、しかもたびたび深夜に及ぶ熱心な検討がなされた結果であります。ご協力に對し心からお礼を申し上げます。私としては、市民の会の検討結果や市議会での議論、意向を踏まえ、狛江の中心地区の街づくりにふさわしいと考え別図を基本計画案と決めました。

北口整備の実現は、いよいよこれからということになります。今後ともいっそうのご理解とご協力をお願い申し上げます。

狛江北口整備計画案概要

一、今回報告の目的
市民の会における各分科会の意向を総合的に反映させながら、道路・公園等の都市施設の都市計画変更に向けての方向づけを行うこと。

二、合意された項目

- ① 駅コンコース位置は、喜多見寄り現踏切部とする(小田急電鉄側は、構造上解決可能との回答あり)。
- ② 北口駅前広場は、前記コンコースに接して設ける。
- ③ 駅前広場整備は、事業面で補助の対象となる条件を備えることとする。
- ④ 駅前広場規模は、将来の駅勢圏人口(六万人を見込む)から、五千平方メートル程度を目標とする(南口と北口との乗降客数比三対七)。
- ⑤ 南口駅前広場とはコンコース位置より、現在のマルシェ前道路一帯を将来南口付近の整備と合わせてショッピングモールとし、北口駅前広場との融合を図る計画とする。
- ⑥ 荒木邸敷地は、泉電寺境内

